

(国語)

「主体的に国語科に取り組み、豊かに表現できる児童の育成」

～ なるほど、たしかに！ わたしはね・・・ ～

大阪市立泉尾東小学校

## 1. 研究主題設定の理由

本校は、「思いやりをもち、確かな学力を身につけ、自ら考え実践する子どもを育てる」の学校教育目標のもと、「よく考える子」「自他ともに生きる子」「たくましい子」の育成に向け日々の教育活動を展開している。

本校では令和元年度より3年間、算数科を研究教科として取り組んだ。取組の結果、算数科に対する児童の苦手意識の減少や、大阪市小学校学力経年調査での知識・技能分野の問題の正答率の向上など一定の成果が見られた。一方、思考力・判断力・表現力等を問われる文章問題では、知識・技能分野と比べて正答率が15～20ポイント低いという実態があった。

問題文を正確に読み取る力や判断の理由を言葉で書き表す力を育てる必要があるという課題が明らかになり、令和4年度より国語科を研究教科とし、3年間にわたって取組を進めてきた。

研究1年目は「児童が主体的に読み取る力をつける国語科の授業 ～説明文の読み取りを通して～」、2年目は「主体的に国語科に取り組み、豊かに表現できる児童の育成 ～『何で?』『そのわけは・・・』～」を主題および副主題として、確かに読み取る力や、読んだことをもとに、自分の考えを根拠をもって書く力を育てることに取り組んだ。

## 2. 研究の趣旨

2年間の国語科の研究を終え、今年度もう1年、書く力に焦点を当てた研究を継続することとした。国語科以外のあらゆる場面で意図的に書く場を設定したことで、児童の書く力は着実に向上してきたといえるが、相手意識をもって、相手に伝わるように書く力を高めるためには、さらに研究を重ねる必要があると考えたからである。

そこで3年目となる今年度、研究主題はそのままに、副主題を「～ なるほど、たしかに！ わたしはね・・・ ～」とし、相手に確かに伝わるように書く力をつけるための研究を進める、という方向性を明確にした。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 思考を促す発問づくり

視点② 思考がはたらく書く場の設定

視点③ 思考を広げ、深めるための交流の場の設定

この3つの視点の中でも、今年度は特に、**視点② 思考がはたらく書く場の設定**について、全学年で重点をおいて研究してきた。

そして、ねらいに沿って書くことができているか、できていないとすればどのような指導の手立てが必要なのかを明らかにするため、ノートやワークシートといった児童の成果物を適切に評価することに取り組んだ。まず、めあてを達成しているといえるB評価の規準を定め、A・B・Cの3段階に分けて成果物を評価した。そして、各評価の人数の分布や傾向を分析し、C評価をB評価に、B評価をA評価に上げるための手立てや指導の改善点を考えてきた。

また別の取組として、本校児童の学習習慣の課題に着目し、朝学習での漢字検定に向けた取組も継続している。児童が学ぶ楽しさや漢字を学習する意義を知り、学びの習慣を身につけるため、朝の学習時間にゲーム感覚で取り組める内容を月ごとに工夫している。

個人やグループで取り組むさまざまな「ミッション」をクリアするために、国語辞典や漢字辞典を自然に活用する姿や学校図書館を積極的に利用しようとする姿が見られるようになった。

月末に「ふりかえりシート」を書くことで、どのような課題が児童の意欲を向上させ、漢字の力をつけることにつながるかを分析している。

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- スクールアドバイザーの助言を得ながら教材研究を進めるなかで、教員自身が幾通りもの初発の感想を書いたり資料の意図を考えたりする学びを通して、教材理解を深めることができた。
- 児童の成果物を担任一人でなくチームで意見を出し合いながら分析・検討する過程で、評価に際しての見方を高め、よりよい指導の手立てを探究することができた。
- 他の教科・領域の学習を行う際や、学校生活のあらゆる場面で意図的に書く場を設定することで、児童の書く活動に対する苦手意識が低減し、根拠をもって伝わるように書こうとする態度が育った。

### (2) 今後の課題

- 研究の視点①としてあげた「思考を促す発問づくり」について、今後研究を深める必要がある。児童が自分なりの考えを生み出して書く力を高めるために、より批判的な読みにつながる発問を工夫していきたい。
- 研究の視点②としてあげた「思考がはたらく書く場の設定」について、読んだことをもとに根拠をもって書くために、前段階で教材文を丁寧に読み取ることに多くの時間を費やした。複数の情報を関連付けて読み、そこから自分の考えを書くためには、内容をもっと大まかにつかむ必要があった。「何を書くのか」を先に示してから内容を読み取るという順序での学習活動の工夫も、今後検討していきたい。
- 研究の視点③としてあげた「思考を広げ、深めるための交流の場の設定」について、各学年において工夫して取り組んできたが、思考の深まりについては課題が残る。さらに学校全体として、系統立てて研究を進めていきたい。